



## 長野県立病院機構の令和元年度決算及び第2期中期計画（平成27年度～令和元年度）の状況がまとまりました

令和元年度決算の概要及び第2期中期計画(平成27年度～令和元年度)の状況は、以下のとおりです。

### ○令和元年度決算の概要

令和元年度は、1億4,794万円の損失

#### 1 延患者数の状況

入院患者数は23万9,723人で、前年度比▲12,372人、4.9%の減少となりました。

外来患者数は40万1,108人で、前年度比225人、0.1%の増加となりました。

#### 2 損益の状況

経常収益は、238億6,296万6千円で、前年度比9,992万3千円、0.4%の増加となりました。

医業収益は、174億157万8千円で、診療単価の増加などにより前年度比9,783万円、0.6%の増加となりました。

経常費用は、240億606万4千円で、医療材料費や賃借料、委託料が増加したことなどから、前年度比6億6,038万9千円、2.8%の増加となりました。

この結果、経常損失は1億4,309万8千円となり、前年度を5億6,046万5千円下回りました。

医療機器等の除却損等が出たため、臨時損失484万1千円を計上し、当期純損失は1億4,794万円となりました。

#### 【機構全体及び各病院の損益の状況】

(単位：百万円)

科 目	機構全体	信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	老健	看護学校	本部
経常収益	23,863	7,179	2,017	1,710	4,014	8,322	464	131	26
医業収益	17,402	5,929	1,326	862	2,975	6,309	0	0	0
うち入院収益	12,403	3,873	1,026	482	1,616	5,405	0	0	0
うち外来収益	4,524	1,798	288	331	1,260	847	0	0	0
老健、看護学校、本部収益	374	0	0	0	0	0	355	19	0
運営費負担金収益	5,480	1,104	630	810	941	1,777	107	95	16
その他経常収益	607	145	61	38	97	236	2	17	10
経常費用	24,006	7,168	2,027	1,623	3,987	8,226	477	154	344
医業費用	22,034	6,814	1,954	1,563	3,828	7,875	0	0	0
うち給与費	12,679	3,553	1,368	926	2,236	4,595	0	0	0
うち材料費	4,037	1,690	117	153	670	1,406	0	0	0
うち減価償却費	1,941	537	187	192	324	701	0	0	0
うち経費	3,314	1,019	276	286	589	1,145	0	0	0
老健、看護学校、本部費用	936	0	0	0	0	0	444	152	340
その他経常費用	1,036	354	73	60	159	351	33	2	4
経常損益	▲143	11	▲10	87	26	96	▲13	▲22	▲318
臨時損益	▲5	▲2	0	0	▲2	▲1	0	0	0
当期純損益	▲148	9	▲11	87	25	96	▲13	▲22	▲318

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

(裏面に続きます。)

## ○第2期中期計画（平成27年度～令和元年度）の状況

第2期中期計画(5年間)の累計で、純損益は▲9,275万6千円  
 経常費用に対する経常収益で表す経常収支比率は99.9%

### 【損益の状況】

(単位:百万円)

項目	H27	H28	H29	H30	R元	2期合計	2期計画
経常収益	23,222	23,095	23,201	23,763	23,863	117,143	117,225
経常費用	23,185	23,358	23,324	23,346	24,006	117,220	116,733
経常損益	37	▲ 263	▲ 123	417	▲ 143	▲ 76	492
純損益	33	▲ 263	▲ 130	417	▲ 148	▲ 93	492

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

### 【第2期中期計画期間の各病院別の損益の状況】

(単位:百万円)

科 目	機構全体	各病院別							
		信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	老健	看護学校	本部
経常収益	117,143	33,617	9,919	8,858	21,566	39,979	2,382	653	169
医業収益	85,076	27,596	6,469	4,547	16,365	30,100	0	0	0
うち入院収益	60,916	18,707	5,051	2,608	8,591	25,959	0	0	0
うち外来収益	21,909	7,671	1,355	1,709	7,264	3,909	0	0	0
老健、看護学校、本部収益	1,928	0	0	0	0	0	1,836	91	0
運営費負担金収益	27,400	5,542	3,127	4,117	4,760	8,748	537	470	100
その他経常収益	2,740	480	323	194	442	1,130	9	93	69
経常費用	117,220	33,478	9,942	8,146	21,530	39,300	2,369	770	1,686
医業費用	107,420	31,909	9,581	7,856	20,570	37,505	0	0	0
うち給与費	61,709	17,568	6,831	4,452	11,271	21,587	0	0	0
うち材料費	19,189	7,047	540	794	4,322	6,486	0	0	0
うち減価償却費	10,632	2,815	867	1,186	1,963	3,801	0	0	0
うち経費	15,530	4,403	1,309	1,398	2,964	5,456	0	0	0
老健、看護学校、本部費用	4,598	0	0	0	0	0	2,168	763	1,667
その他経常費用	5,201	1,570	361	290	960	1,795	201	7	18
経常損益	▲ 76	139	▲ 23	712	37	679	13	▲ 117	▲ 1,517
臨時損益	▲ 16	▲ 7	▲ 1	▲ 2	▲ 6	▲ 1	0	0	0
当期純損益	▲ 93	132	▲ 24	710	31	678	13	▲ 117	▲ 1,517

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。



地域の明日を医療で支える  
 地方独立行政法人 長野県立病院機構

長野県立病院機構本部事務局  
 担当 (局長) 蔵之内 充 (課長) 和田 良仁  
 (担当) 氷熊 真也  
 電話 026-235-7152 (直通)  
 FAX 026-235-7161  
 E-mail honbu@pref-nagano-hosp.jp

# 長野県立病院機構令和元年度決算及び第2期中期計画期間の取組みについて

長野県立病院機構本部事務局

## 1 概要

- 経常収益：238億6,296万6千円（前年度比、+9,992万3千円）
  - ・入院患者数はすべての病院で減少したが、診療単価が増加したことにより医業収益は前年度より増加
  - ・こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院で外来患者数が増加
  - ・入院単価は信州医療センター、こころの医療センター駒ヶ根、木曽病院及びこども病院で増加
  - ・外来単価は信州医療センター、こころの医療センター駒ヶ根、阿南病院で増加
  
- 経常費用：240億606万4千円（前年度比、+6億6,038万9千円）
  - ・休日給（天皇即位に関する祝日等が多かったことによる）や超過勤務手当等の増加
  - ・材料費、賃借料や委託料といった経費で増加
  
- 経常損益：1億4,309万8千円の損失（前年度比、▲5億6,046万5千円）
  - ・入院患者数が大きく減少したが医業収益は前年度を上回る収益を確保
  - ・一方、経常費用は給与費や経費が増加
  - ・そのため、経常費用が経常収益を上回り損失を計上
  
- 当期純損益：1億4,794万円の損失（前年度比、▲5億6,469万4千円）
  - ・医療機器等の除却損等で▲484万1千円を計上
  
- 新型コロナウイルス感染症に対する県立病院機構の取組み  
令和2年1月から新型コロナウイルス感染症の流行が国内でも始まり、県内においても2月に新型コロナウイルス感染症患者が発生した。  
信州医療センターでは、県の第一種感染症指定医療機関として令和2年1月から、新型コロナウイルス感染症への医療提供体制を確保するため、感染症病棟の受入体制の準備を始めた。ダイヤモンドプリンセス号における感染症患者や、県内における感染症患者発生に対しても、必要な医療を提供してきた。さらに、新型コロナウイルス感染症患者へ医療提供体制を確保するため、一般病床の入院患者の受入制限も行った。  
その他の病院においても、新型コロナウイルス感染症患者の入院に対応する病棟の体制整備や一部一般の入院患者等の受入制限を行った。  
新型コロナウイルス感染症に対応するため、不足する診療材料や備品等の購入、地域住民の診療抑制による患者減少、発熱外来の対応等、通常とは異なった対応・体制整備によることが多く、例年の2月～3月の収益は確保できなかった。  
今後についても、引き続き感染症患者拡大に備えて、病床を確保するなど更なる診療体制の整備が必要である。

## 2 損益の状況

### (1) 全体

(税抜、単位：千円)

科 目	令和元年度	平成30年度	令和元年度計画	増減(元-30)	増減(元-計画)
経常収益 (ア)	23,862,966	23,763,042	23,720,414	99,923	142,552
医業収益	17,401,578	17,303,748	17,351,524	97,830	50,054
うち入院収益	12,402,744	12,481,914	12,539,676	▲ 79,170	▲ 136,932
うち外来収益	4,523,529	4,352,810	4,345,946	170,719	177,583
うち公衆衛生活動収益等	373,135	362,252	350,240	10,883	22,895
介護老人保健施設収益	355,078	361,728	378,532	▲ 6,650	▲ 23,454
看護師養成所収益	19,098	18,846	20,397	252	▲ 1,299
運営費負担金収益	5,480,000	5,480,000	5,480,000	0	0
その他経常収益	607,212	598,720	489,961	8,491	117,251
経常費用 (イ)	24,006,064	23,345,675	23,702,958	660,389	303,106
医業費用	22,034,396	21,458,844	21,766,264	575,552	268,132
うち給与費	12,678,647	12,449,220	12,575,997	229,427	102,650
うち材料費	4,036,619	3,817,198	3,848,655	219,421	187,964
うち減価償却費	1,941,139	1,944,244	1,948,637	▲ 3,104	▲ 7,498
うち経費	3,314,198	3,182,899	3,313,770	131,299	428
介護老人保健施設費用	443,952	424,040	439,826	19,912	4,126
看護師養成所費用	151,977	154,907	145,043	▲ 2,930	6,934
一般管理費	340,197	319,787	337,439	20,411	2,758
財務費用 (支払利息)	356,111	404,026	363,281	▲ 47,914	▲ 7,170
その他経常費用	679,430	584,072	651,105	95,359	28,325
経常損益 (ア-イ)	▲ 143,098	417,367	17,456	▲ 560,465	▲ 160,554
臨時損益 (ウ)	▲ 4,841	▲ 612	▲ 320	▲ 4,229	▲ 4,521
当期純損益(ア-イ+ウ)	▲ 147,940	416,755	17,136	▲ 564,694	▲ 165,076

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

### (2) 貸借対照表 (要約)

(単位：千円)

資産の部	金 額	負債の部	金 額
固定資産	23,595,460	固定負債	25,023,809
有形固定資産	22,517,113	資産見返負債	1,089,707
無形固定資産	50,110	長期借入金	7,071,328
投資その他の資産	1,028,237	移行前地方債償還債務	9,937,271
流動資産	7,402,500	引当金	6,854,891
現金・預金	3,781,981	長期リース債務	70,612
未収金	3,460,479	流動負債	5,729,242
貸倒引当金	▲ 26,459	1年以内返済予定長期借入金	1,410,261
医薬品等	83,086	1年以内返済予定移行前地方債債務	1,462,645
その他	103,413	1年以内返済予定リース債務	36,693
		未払金	1,868,602
		賞与引当金	729,848
		その他	221,194
		負債合計	30,753,052
		純資産の部	金 額
		資本金	305,622
		資本剰余金	20,106
		繰越欠損金	▲ 80,819
		純資産合計	244,909
資産合計	30,997,960	負債・純資産合計	30,997,960

### (3) 病院別

- 信州医療センター：産科体制が安定・充実し、分娩取扱件数が230件に増加（対前年+44件）したことや手術件数の増加（対前年+126件）、外来化学療法の増加（対前年+456件）など医療提供体制が充実し黒字を確保
- こころの医療センター駒ヶ根：デイケアや訪問看護の充実・強化などにより外来患者数が大幅に増加（対前年+1,138人）したことや入院期間の適正化に更に取り組んだことにより赤字幅が昨年より大きく減少
- 阿南病院：入院患者及び外来患者の減少により赤字幅が大きく減少
- 木曽病院：入院患者は減少したが、入院単価の増及び院外処方を増やしたこと等による薬品費の減少により黒字を確保
- こども病院：患者のニーズに対応した高度専門医療の提供や新たな診療科（アレルギー科、訪問ケア科、感染症科）の開設により黒字を確保

区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども	老健	看護学校	本部	計
経常収益	7,178,692	2,016,780	1,710,432	4,013,583	8,321,911	464,266	131,253	26,049	23,862,966
(前年度比)	105%	101%	95%	95%	100%	99%	100%	107%	100%
経常費用	7,167,894	2,026,972	1,623,220	3,987,245	8,225,732	477,425	153,724	343,853	24,006,064
(前年度比)	107%	100%	100%	96%	104%	104%	98%	107%	103%
経常損益	10,799	▲10,192	87,212	26,338	96,179	▲13,159	▲22,471	▲317,804	▲143,098
(前年度差)	▲121,542	23,515	▲85,070	▲58,186	▲277,549	▲23,270	2,120	▲20,483	▲560,465
純損益	8,710	▲10,653	87,130	24,672	95,635	▲13,159	▲22,471	▲317,804	▲147,940

### 3 延患者数の状況

#### (1) 入院患者数

- 信州医療センター：呼吸器外科、産婦人科、整形外科等で患者数は増加したが、新型コロナウイルス感染症受入体制の整備により大幅に減少
- こころの医療センター駒ヶ根：措置入院患者の減少により入院患者微減
- 阿南病院：病棟死亡患者の増加や救急搬送の減少により入院患者が大幅に減少
- 木曽病院：長期入院患者の減少や救急搬送の減少、新型コロナウイルス感染症受入体制の整備等の影響により入院患者が大幅に減少
- こども病院：長期入院患者の減少や感染症の院内流行等により減少

入院患者数	R元実績	H30実績	R元－H30
全体	239,723人	252,095人	▲12,372 (95.1%)
信州	88,942人	90,876人	▲1,934 (97.9%)
駒ヶ根	37,400人	37,515人	▲115 (99.7%)
阿南	17,053人	19,272人	▲2,219 (88.5%)
木曽	43,681人	48,709人	▲5,028 (89.7%)
こども	52,647人	55,723人	▲3,076 (94.5%)

#### (2) 外来患者数

- 信州医療センター：泌尿器科、産婦人科で増加し、内科、小児科、眼科で減少し患者数は微減
- こころの医療センター駒ヶ根：デイケア、訪問看護の利用者が大幅に増加したことにより患者数が増加
- 阿南病院：常勤医師を配置した外科で増加したが、内科、小児科で減少
- 木曽病院：新型コロナウイルス感染拡大による患者の受診抑制により減少

○こども病院：小児アレルギー科、感染症科等を新設した影響により増加

外来患者数	R元実績	H30実績	R元－H30
全体	401,108人	400,883人	225 (100.1%)
信州	120,749人	120,801人	▲ 52 (100.0%)
駒ヶ根	41,189人	40,051人	1,138 (102.8%)
阿南	46,882人	47,667人	▲ 785 (98.4%)
木曾	125,512人	127,418人	▲ 1,906 (98.5%)
こども	66,776人	64,946人	1,830 (102.8%)

#### 4 患者1人1日当たりの診療単価の状況

- 信州医療センター：入院では急性期一般入院料2の維持や手術件数の増加、外来では化学療法件数の大幅な増加によりいずれも診療単価が増加
- こころの医療センター駒ヶ根：入院では3カ月以内の再入院患者減少への取組み、外来ではデイケアや訪問看護の増によりいずれも診療単価は微増
- 阿南病院：入院では患者が減少したが診療単価は前年度並み、外来では人工透析の稼働率が上がり診療単価が微増
- 木曾病院：入院では効果的なベッドコントロールにより診療単価が増加、外来では健康診断の受診者数が増加したことにより診療単価が微減
- こども病院：入院では高額な手術件数が増加したことにより診療単価が増加、外来では患者数は増えたが診療単価は前年度並み

##### ア 入院患者

##### イ 外来患者

	R元	H30	R元－H30		R元	H30	R元－H30
信州	43,549円	41,785円	1,764円 (104.2%)	信州	14,887円	13,042円	1,845円 (114.1%)
駒ヶ根	27,432円	27,093円	339円 (101.3%)	駒ヶ根	6,986円	6,747円	239円 (103.5%)
阿南	28,291円	28,373円	▲ 82円 (99.7%)	阿南	7,066円	6,910円	156円 (102.3%)
木曾	36,992円	35,594円	1,398円 (103.9%)	木曾	10,040円	10,601円	▲ 561円 (94.7%)
こども	102,667円	96,687円	5,980円 (106.2%)	こども	12,681円	12,735円	▲ 54円 (99.6%)

#### 5 第2期中期計画期間における病院の主な取組事項

##### (1) 信州医療センター

- ・平成29年7月に「須坂病院」から「信州医療センター」へと改称
- ・内視鏡センター及び感染症センターの開設による医療提供体制の強化
- ・妊産婦を多職種でサポートして産後うつを予防する取組みが「須坂モデル」として注目度が向上
- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の長野県内での感染発生に対して常勤感染症専門医2名による診療及び県内の感染症指定医療機関に向けたCOVID-19に関する最新の治療情報の提供

## (2) こころの医療センター駒ヶ根

- ・長野県の精神科救急の拠点として、24時間365日体制で救急患者の受入れ、m-ECT（修正型電気痙攣療法）やクロザピン治療といった先進専門医療を導入し治療を実施
- ・児童・思春期精神科の充実を図るため、子どものこころ診療センターを開設
- ・長野県からアルコール依存症治療拠点機関及び専門医療機関の指定
- ・精神科研修・研究センターを設置し、信州大学大学院、長野県看護大学等と協力して研修・研究体制を強化
- ・DPA T（災害派遣精神医療チーム）を長野県で初めて登録し、令和元年台風19号災害での避難者支援、新型コロナウイルスにおける帰国者の健康調査などにチーム員を派遣

## (3) 阿南病院

- ・診療体制の充実により、住民のニーズに応える地域医療の推進、救急医療、訪問診療、施設の後方支援等の実施
- ・小児科の日曜診療等を実施し、患者の利便性の向上
- ・へき地医療拠点病院として携帯型医療機器等を活用し、無医地区への医療の提供
- ・認知症なんでも相談室を開設し、専任スタッフと認知症看護認定看護師による相談業務等の積極的実施
- ・リハビリテーションスタッフの充実により、小児から成人まで幅広いリハビリテーションの提供

## (4) 木曾病院

- ・平成28年4月に地域がん診療病院の認定を受け、信州大学医学部附属病院と連携した診療・相談体制の整備
- ・急性期から回復期及び生活期まで途切れのないリハビリテーションを提供するため、平成28年7月から365日リハビリテーションを開始
- ・長期療養のための医療と日常生活上の介護を一体的に提供する体制を整え、令和2年3月に介護医療院「ユーライフきそ」を開設
- ・木曾地域の医療ニーズの変化に対応するため、平成30年3月に地域包括ケア病棟を開設

## (5) こども病院

- ・変化する小児・周産期医療に対応する診療体制の強化（小児アレルギー科、感染症科、こころの診療科、訪問診療センターの開設、PICUの増床）
- ・増加する成人移行期患者への支援の取組強化（移行期支援外来の開設、就学・就労支援の充実）
- ・小児神経筋疾患の治療のための新たな診療の開始（ロボットスーツHALを活用した診療、脳性麻痺など重度の痙攣に対するバクロフェン髄注療法埋め込み術等）

## 6 今後のスケジュール

- ・6月30日 財務諸表等と業務実績等報告書を知事（健康福祉部長）に提出
- ・7月～9月 評価委員会の意見を聴いて知事が評価
- ・9月 知事は評価結果について県議会へ報告